

会 告

第 91 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和51年1月16日（金）

本会は第91回講演大会を昭和51年4月4日（日）、5日（月）、6日（火）の3日間東京大学（東京都文京区本郷 7-3-1）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和51年1月16日（金）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承ください。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 原稿用紙は（会告N186 ページ）のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは1人3件以内といたします。
6. 申込方法 本誌クリーム頁末添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は（A）、（B）とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。（申込用紙は、クリーム頁末添付）
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和51年1月16日（金）17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
（社）日本鉄鋼協会 編集課

講演分類

製 鉄						製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	特殊製鉄	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼基礎	溶解精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄造	粉末冶金	溶接	金属物理	金属組織	鋼の性質	鉄鋼材料	鑄鉄鑄鋼	分 析	試験・検査技術	計自動制御	IE 一般技術	その他

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より 20 日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1 枚 5 円（頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込）

5 枚 95 円, 20 枚 215 円, 40 枚 375 円

10 枚 135 円, 25 枚 270 円, 50 枚 500 円

15 枚 190 円, 30 枚 295 円

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

2. 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。

3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 庶務課

会 費 納 入 に つ い て の お 願 い

昭和 51 年分会費の納入期がまいりました。本会の事業は会費を主な財源として行なわれますので、会費は毎年 12 月に 1 年分を前納していただくことになっております。別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいますようお願いいたします。会員団体所属の会員にあつては幹事宛お支払い下さい。

記

会費年額

正 会 員 5,400 円

学生会員 2,700 円

外国会員 6,000 円

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人日本鉄鋼協会 郵便振替口座 東京 193 番

昭和 51 年秋季 (第 92 回) 講演大会討論会 討 論 講 演 募 集 の お 知 ら せ

昭和 51 年秋季 (第92回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高 炉 の 反 応 座長 吉井 周雄

近年高炉解体時の調査、操業中の炉内試料採取などにより、炉内の状況は把握されて来つつあるが、それらの現象を知るのみでは、その意味は少なく、それらの知見を今後の操業に生かし、又制御に使用せねばならない。

また一方、炉内反応の基礎的研究も進み、その反応の解明に多くの知見が与えられている。それらの多くの反応または、その組合せにより、炉内における成分移動、還元、溶融、メタル・スラグ分離などの状況が出現していると考えられるが、この討論会では、上記の諸調査、研究の結果を踏まえて、高炉炉内の挙動を対象として反応面より討論を行ない、炉内反応の解明に資したいと考える。

2) 連鑄々片の内部割れの発生とその防止法 座長 郡司 好喜, 大橋 徹郎

連鑄々片の操業技術の進歩に伴ない、鑄片の内外に発生する多くの欠陥も、その生成機構の解明と防止対策の進歩によつて大幅に減少しつつあります。

今回は、連鑄々片特有の欠陥である“内部割れ”についての討論を予定しております。内部割れは鋼の高温強度、連鑄機の構造、操業方法など幅広い分野の総合的な検討が必要とされており、その対策技術の確立は単に鑄片品質の安定のみならず、高速鑄造を目指す上での重要な課題でもあります。基礎的な研究は勿論、実操業の総合的な解析および防止対策までを含む広い範囲の討論を期待しております。

3) 高張力鋼薄板 (ステンレスを含む) の塑性加工 座長 神馬 敬

軽量でかつ高強度の製品を目標として、高張力鋼薄板の塑性加工が自動車をはじめ各種の業界で行われるようになった。これに伴い、新しい材質の開発、成形法、成形性試験、型の潤滑、製品の安全性など各方面からの研究が進められている。しかし、なお未解決の点が多い、この機会に共通の課題をもつステンレス鋼板も含めて討論を行い、今後の一層の発展を期待したい。

4) 鋼の疲労き裂の発生と伝播特性 座長 荒木 透

各種構造用鋼の繰返し応力による疲れ挙動と成分、組織、不均質性等の冶金的要因との関係を実験的に追究し、その関連を材料学的に考察した論文を中心に討論を行なう。破壊力学的解析や疲れ損傷の微視的機構の考察も望ましい議論である。とくに疲労き裂の発生の条件、疲労き裂伝播 (da/dN) についての ΔK_{thres} 、速度指数等の特性が実際の鋼の組織、他の力学特性、欠陥等の要因とどう関連するかということに関する新しい見解を期待する。

2. 申込締切日 昭和 51 年 2 月 10 日 (月)

3. 申 込 方 法 「鉄と鋼」本誌明年 1 月号添付の申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採 否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 51 年 5 月 10 日 (月)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図、写真を含め 6,700 字) にタイプ印書、黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 62 年第 8 号 (昭和51年 7 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 62 年第 9 号 (8 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の 昭和 51 年 9 月末日

公募締切日 前記 9 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 37 回西山記念技術講座開催のお知らせ

テーマ：厚鋼板の材質上の諸問題

第 37 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内いたします。

I 期日

第 37 回 大阪 昭和 50 年 12 月 10 日(水), 11 日(木)

大阪科学技術センター 大ホール

(大阪市西区靱 1-118 TEL 06-443-5321) うつぼ公園隣

(注) 本講座は去る 11 月 26 日, 27 日東京で開催いたしました第 36 回講座と同内容のものです。

II 演題ならびに講師

第 1 日	10:00~12:30	厚鋼板の母材靱性	新日本製鉄基礎研究所	井 上 泰
	13:30~16:00	厚鋼板の熱処理と特性	住友金属工業中央技術研究所	邦 武 立 郎
第 2 日	10:00~11:30	制御圧延と厚鋼板の機械的性質	日本鋼管技術研究所	小 指 軍 夫
	13:00~14:30	厚鋼板の特性と製鋼要因	川崎製鉄技術研究所	船 越 督 己
	14:45~16:15	溶接接合部および溶接熱影響部の靱性	新日本製鉄基礎研究所	関 野 昌 蔵

III 講座内容

1. 厚鋼板の母材靱性 新日本製鉄(株)基礎研究所 井 上 泰

厚板の靱性は多くの因子によつて支配され、それらによつて敏感に変化するのでバラツキも多く推定がむずかしい。しかしながら最近にいたるまでの数多くの研究によりいくつかの指導原理と直接的、間接的な要因が明らかにされている。ここではこれらの靱性支配因子を冶金学的要因別に整理して述べる。

2. 厚鋼板の熱処理と特性 住友金属工業(株)中央技術研究所 邦 武 立 郎

高張力鋼板、低温用鋼板、造船用鋼板など、厚鋼板の強靱性、溶接性などに対して要求される性能は、ますます高度のものになりつつある。これにこたえるために、鋼の成分系の選定、入念な溶製、圧延の後、焼入れ、焼もどし、あるいは焼ならしなどの熱処理が施こされる。厚鋼板の熱処理と微視組織、さらにその特性におよぼす影響についてのべる。

3. 制御圧延と厚鋼板の機械的性質 日本鋼管(株)技術研究所 小 指 軍 夫

制御圧延 (Controlled Rolling) はすでに実生産に広く応用されている技術であり、最近これに関する研究も多い。本講では制御圧延の基礎として機構的な側面について統一的な説明を試み、またいくつかの実例について述べる。さらに最近問題になっている集合組織の生成、2 相領域における圧延などについても簡単に触れる。

4. 厚鋼板の特性と製鋼要因 川崎製鉄(株)技術研究所 船 越 督 己

厚鋼板の諸特性、主として延性、靱性、疲労特性、耐ラメラテア性および遅れ破壊特性などが製鋼要因によつてどのような影響をうけるかについて述べる。

製鋼要因として非金属介在物、偏析、不純物元素などをとりあげ、これらと製鋼方法との関連についても触れる。もつとも重要な因子は非金属介在物であり、破壊の発生位置になるばかりか、形態や形状によつては鋼板内の異方性の主原因となり、それらの対策についても述べる。

5. 厚鋼板の溶接接合部および熱影響部の靱性 新日本製鉄(株)基礎研究所 関野 昌蔵

厚板、高張力鋼板の脆性破壊発生防止の観点が最も重要な特性の 1 つが溶接接合部および溶接熱影響部の靱性である。この点について今までわかっている知識を主として成分面からまとめた。構造物全体の安全性は総合技術の結果であり、溶接接合部および溶接熱影響部の靱性以外にも多くの因子が関連をもっていることを解説する。

IV 聴講料無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 3,000 円

VI 問 合 せ 先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

VII そ の 他 講座の開催当日会場にて協会の刊行物を展示頒布いたします。

石原・浅田研究助成金交付研究決定のお知らせ

石原・浅田研究助成金の交付について本誌第8号会告により候補研究を募集し多数の応募がありましたが、研究委員会での選考を経て下記の通り候補研究を決定しましたのでお知らせします。

記

プラズマ・ジェットによる鉄鋼精錬に関する基礎的研究

研究代表者 東京大学工学部金属工業科技官

〃 〃

助教授

金子 恭二郎 君

佐野 信雄 君

層状装入高炉の半径方向分布特性の研究

研究代表者 名古屋大学工学部鉄鋼工学科助手

桑原 守君

透過電顕観察法を用いた鉄鋼材料の高温粒界破壊に関する基礎的研究

研究代表者 東北大学工学部金属材料工学科助手

渡辺 忠雄 君

共同研究者 東北大学大学院学生

粉川 博之 君

炭素鋼の熱間加工に関する研究

研究代表者 電気通信大学機械工学科講師

酒井 拓君

共同研究者 電気通信大学機械工学科

大橋 正幸 君

鉄鋼材料の破壊力学特性値と Acoustic Emission

研究代表者 東京大学宇宙航空研究所材料部助教授

岸 輝雄 君

共同研究者 東京大学宇宙航空研究所

栗林 一彦 君

〃 東京大学工学部大学院

田中 博君

〃 〃 〃

榊原 一君

東東工業大学精密研究所

羽田野 甫君

日本大学工学部大学院

小幡 義男 君

鉄鋼基礎共同研究会凝固部会シンポジウム

鉄鋼の凝固現象

—現在の問題点と将来の方向を中心として—

主 催：鉄鋼基礎共同研究会凝固部会（日本学術振興会，日本金属学会，日本鉄鋼協会）

日 時 昭和 51 年 2 月 18 日（水）9:30~17:00

会 場 農協ビル 9 F 農協ホール

東京都千代田区大手町 1-8-3 TEL (03) 279-0311（地下鉄丸の内線）

プ ロ グ ラ ム

午前 (9:30~12:00)

(1) 凝固部会経過報告

金材技研 郡 司 好 喜

(2) 伝熱計算の設定条件と手法(I)

名大工 鞭 巖

(3) 伝熱計算の設定条件と手法(II)

川鉄技研 松 野 淳 一

(4) 結晶組織形態の生成機構

北大工 高 橋 忠 義

午後 (13:00~17:00)

(5) 鉄鋼のデンドライトアームスパーシングとミクロ偏析

阪大工 岡 本 平

(6) 凝固過程における介在物の生成

東大工 梅 田 高 照

(7) 鉄凝固時の気孔生成

名大工 森 村 宏 之

(8) 等軸晶の生成機構

神 鋼 鈴 木 章

(9) キルド鋼塊のマクロ偏析

日 鋼 鈴 木 是 明

(10) 連铸々片のマクロ偏析，とくに中心偏析について

新日鉄広畑 大 橋 徹 郎

(11) 総合討論

テキスト代 500 円（当日会場入口にて頒布致します）

参加費 無料（事前の申込みは必要ありません）

お問い合わせ先 日本鉄鋼協会技術部 吉 岡 邦 宏

東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 TEL (03) 279-6021（代）

昭和 50 年度北陸支部講演会 (研究発表会) プログラム

日 時 昭和 50 年 12 月 11 日 (木)

場 所 金沢大学工学部 秀峰会館
〒920 金沢市小立野 2-40-20
Tel. 0762-61-2101

8:50~9:00 開会の挨拶 支部長 小田 伸彬
第 1 会場

9:00~10:00 司会 新大工 古川 徹

1. Al-Mg-Si 合金の析出挙動と過剰 Si について
富大工 室町繁雄, 富工専 前 健彦,
富大工○南 吉雄

2. Al-Mg-Si 合金の電気抵抗
富工専○前 健彦, 富大工 室町繁雄

3. TiC-Ni-Mo 合金における圧粉体の諸性質
に及ぼす予備焼結条件の影響について
不二越技術 蜂須賀武治, ○木村文則

10:00~11:00 司会 金大工 上田 益造

4. 硫化第 2 銅の酸化浸出反応
富大工 位崎敏男, 新井甲一, ○松沢信明,
林 祐孔

5. PbS-FeS₂ 系硫化物間の電気化学的相互
作用について
富工専 岩井正雄

6. 純 Ni の電解法による水素割れ
富大工○北川 茂, 松野良弘

11:10~12:10 特別講演

——昼 休——

13:00~13:40 司会 日本曹達 井戸原 満

7. MnO₂ の熱解離について
富大工 位崎敏男, ○曳田昌徳

8. Versatic acid 10 による Pb の溶媒抽出
富大工 位崎敏男, 佐貫須美子, ○安川豊司

13:40~14:20 司会 信大工 加藤 良雄

9. Al 双結晶の塑性変形挙動に関する研究
金大工 関 文男, 上田益造, ○北川和夫
新庄弘之

10. Cu 双結晶の塑性変形挙動に関する研究
金大工 関 文男, 上田益造, 北川和夫,
○新庄弘之, 林 欽一

14:20~15:20 司会 富大工 位崎 敏男

11. 選択性重金属固定剤を用いる重金属含有
工程液の処理
日本曹達・高岡 小田伸彬, 井戸原満,
堀江良男, ○五明 健

12. 選択性重金属固定剤を用いるクロム含有
汚泥の処理
日本曹達・高岡 小田伸彬, 井戸原満,
堀江良男, ○山森義昭

13. 切削表面集合組織の成因について
信大工○林 修一, 加藤良雄

15:30~16:40 湯川記念講演

第 2 会場

- 9:00~10:00 司会 富大工 山田 正夫

見学会

14. オースフォーム加工におけるスキンパス
効果について
金大教育○広瀬幸雄, 倉田勇雄, 三好弘幸
金工大 石川憲一, 村本豊一, 尾本善晴

15. オースフォーム加工におけるスキンパス
圧延による内部微細組織について
金大教育 広瀬幸雄, ○倉田勇雄,
金工大 石川憲一, 坂場修一, 松尾一郎

16. オースフォーム加工におけるスキンパス
圧延による引張特性について
金大教育○広瀬幸雄, 倉田勇雄, 堀田和文
金工大 石川憲一, 照田哲夫, 正木之生

10:00~11:00 司会 金大教養 竹村 松男

17. 高炭素鋼の歪焼もどしについて
不二越技術 ○石原孝夫

18. 滲炭表面硬化した鋼の停留き裂について
新大工 古川 徹, ○田中誠三

19. 普通炭素鋼におけるセメントタイトの
均一球状化について
山口大 ○福井 昂

——昼 休——

13:00~14:00 司会 富大工 池田 正夫

20. Mo 系高速度鋼の組織, 熱処理特性に及ぼす
C, V, Si, N の影響
不二越・東富山 北野治一, 上田 保
田中康夫, ○天地宏地

21. SKH9 の材料特性に及ぼす C の影響
不二越・東富山 北野治一, 上田 保,
○野崎義弘

22. ESR 溶解における電流波形と鋼塊の品質
との関係について
ステンレス 直江津 斎藤喜一, ○小林俊三,
松浦則之, 高橋幸久, 池田了康

14:00~15:20 司会 不二越 蜂須賀武治

23. 円盤特殊形状などにおける鋳造応力について
富大工 養田 実, ○阿手雅博

24. 回収砂添加による自硬性鋳型の高温性質に
ついて
富大工 養田 実, ○中田登志夫

25. 鋳鉄の加熱中の強度と熱処理強度について
大阪電通大 ○水野兼雄, 金持昭治,
赤星通次郎

26. ころがり摩耗に及ぼす仕上面あらさについて
宇部工専 ○森重修一, 山口大 福井 昂

特別講演 11:10~12:10 司会 支部長 小田 伸彬

「科学者の観たソ連邦及び印度大陸の民情」
東北大学名誉教授 工博 後藤 秀弘

湯川記念講演 15:30~16:40 司会 金大工 関 文男

「重金属に関する環境保全対策について」
日本曹達(株)参与 工博 小田 伸彬

17:00~19:00 懇親会 (金沢大学工学部秀峰会館)
会費 1,500 円

日 時 12月12日(金) 金沢駅前9時集合
小松駅前15時30分散
見学先 丸谷光仙窯, 日野車体工業(株)金沢工場
(株)小松製作所栗津工場の3カ所
その他 会費 1,000 円, 同業者は御遠慮下さい。
懇親会, 見学会に参加御希望の方は, 12月3日(水)ま
でに下記宛お申込み下さい。
日本曹達(株)高岡工場日本鉄鋼協会北陸支部
〒933 富山県高岡市向野本町 300
(電話 0766 (23) 2001)

参加費 会員 8,000 円 非会員 15,000 円
(いずれもテキスト含)
テキスト テキストのみご希望の方は1部4,000 円
(シンポジウム終了後送付)
テキスト B5判 タイプオフセット約240 頁
申込方法 氏名, 所属, 連絡先を明記(様式随意), 参加
費を添えて2月2日(月)までに次にお申込み
下さい。
申込先 〒606 京都市左京区吉田泉殿町1の101
TEL (075) 761-5321
振替口座 京都 26625 番

破碎・粉碎およびその応用に関する シンポジウム

主催 日本材料学会 共催 日本鉄鋼協会, ほか
期日 昭和51年2月17日(火), 18日(水)
会場 日本イタリア京都館 (京都市左京区吉田牛ノ
宮町4 市電・市バス東一条下車西20m)
プログラム

第1日(2月17日)
9:30 あいさつ 京大工 向井 滋
9:40 破碎・粉碎に関する岩石の破壊特性
京大工 寺田 孚
10:25 粉碎効率について(仮題)
名大工 神保 元二
11:10 粉碎過程と粒度分布 東大工 井上外志雄
13:00 プラスチックの被粉碎性
徳島大工 松居 国夫
13:45 超微粉碎について 同志社大工 奥田 聡
14:30 産業廃棄物の冷凍破碎 栗本鉄工 伊東 良太
15:25 低温粉碎について 大阪瓦斯 前田 宏幸
16:10 分級に関する最近の話題
京大工 吉岡 直哉

第2日(2月18日)
9:00 岩石力学的に見た粉碎現象
京大工 岡 行俊
9:45 鉱石の粉碎とその成分鉱物の単体分離
京大工 若松 貴英
10:30 粉碎産物の物性とふるい分け(仮題)
同志社大工 三輪 茂雄
11:15 クラッシャーの通過容量
日鉄鉱業 高橋 信博
13:00 砕石および砂のプラントについて
原砕石研 原 真
13:45 ペリフェリーディスチャージミル
大塚鉄工 多田 津和
14:30 鉄鉱石ペレット製造における摩砕について
新日鉄広畑 下村 泰人
15:25 セメント工業における粉粒体の取扱い
種々相 大阪セメント 車田 則充
16:10 集塵に関する最近の話題
京大工 井伊谷綱一
(各講演はそれぞれ5~10分程度の質問時間を含む)

第8回高温材料技術講習会 未来技術とセラミックス

主催 窯業協会 協賛 日本鉄鋼協会, ほか
期日 昭和51年3月9日(火), 10日(水)
場所 日本都市センター本館講堂
東京都千代田区平河町2丁目
電話 03-265-8211
プログラム

第1日 3月9日(火) 9:00 開会
9:10 材料開発の先行意識 旭硝子 山本 英雄
11:00 高温域で使用する複合材料
金材技研 渡辺 治
13:30 ガス圧下でのセラミックスの作成
阪大産研 小泉 光恵
15:30 新しい炭素材料 日本カーボン 田中 淳一
第2日 3月10日(水)
9:00 光通信用ファイバー 東芝総研 今川 宏
10:30 高温熱交換と材料
東工大原子炉研 鈴木 弘茂
13:00 太陽エネルギー開発と材料
名工試 野口 哲男
14:40 耐火物原料資源 三井金属鉱業 吉田 国夫
15:40 海洋開発と海底資源 地調 岡野 武雄

定員 120名 先着順受付

申込締切 昭和51年2月16日(月)

ただし満員になり次第締切ります。

参加費 会員(窯業協会特別会員会社々員および協賛
先個人会員を含む)

1名	14,000 円
官公庁, 学校在職者	〃 13,000 円
学 生	〃 12,000 円
上記以外	〃 16,000 円

注: いずれもテキスト1部代を含む。昼食は自
弁に願います。

テキスト 前送の予定ですが, 印刷の都合によつては当
日会場でお渡しします。

申込みと送金 1) 便箋に横書きで第8回高温材料技術
講習会申込と首記し, ①氏名, ②所属学
協会名, ③勤務先(くわしく), 同所在地
同郵便番号, 同電話(市外番号も), ④送
金額を記載, 受講料を添えてお送り下さ
い。

2) 参加費は、整理上勝手ながら「現金書留」でお願いします。官公庁、事業所の手続きでおそくなられる向は、その旨申込書に明示して下さい。後払いでも構いません。

3) 受理の方には、参加証、領収書をおりいたし、必要の都度ご連絡いたします。

申込先・送金先・照会先

〒160 東京都新宿区百人町2丁目22-17
社団法人窯業協会（企画委員会）
電話 03-362-5232

第8回国際フッ素化学シンポジウム

(The Eighth International Symposium on Fluorine Chemistry)

主催 同上シンポジウム組織委員会
協賛 日本鉄鋼協会、ほか

日時 昭和51年8月22日(日)～27日(金)

会場 国立京都国際会館（京都市左京区宝池）

部門 物理化学、無機化学、有機化学、高分子化学、生物・医・薬学、工業化学

講演 講演は英語に限ります。講演時間は討論(5分)を含めて1件20分以内。

講演申込書記入内容 ①題名(英文)、②希望部門、③発表者氏名(ローマ字併記、講演者○印)、④所属機関(英文併記)、⑤連絡先(氏名、住所、郵便番号)

講演申込締切及び送付先 昭和51年1月10日
〒606 京都市左京区吉田本町 京都大学工学部
工業化学教室 第8回国際フッ素化学シンポジウム事務局 安藤貞一 [電話: 075-751-2111 (内線5528)]

講演要旨(英文)締切 昭和51年2月末日
(用紙は講演申込受付次第送付します)

鉄鋼基礎共同研究会・再結晶部会報告書

「鉄鋼薄板の再結晶及び集合組織」

昭和50年1月完成 定価 4,500円

B5版 2分冊 総476頁

鉄鋼基礎共同研究会「再結晶部会」は昭和45年4月発足以来「薄鋼板製造技術の基礎としての再結晶現象および集合組織」に焦点を合わせて共同研究を進めてまいりました。本年3月部会活動を終了するにあたりその間の研究成果をふまえ、さらに広く最近の主要研究データを網羅した報告書を作成いたしました。

この報告書が薄鋼板製造技術のみならず、広く鉄鋼材料製造技術上の再結晶を伴う諸過程の研究の資料として役立つことを確信いたします。本書は第1分冊(本文)と第2分冊(図、写真、表)よりなっております。

執筆者 東京大学 阿部 秀夫、小原 嗣郎、石田 洋一
金材技研 古林 英一
新日鉄 長島 晋一、速水 哲博、松尾 宗次
日本鋼管 久保寺治朗、稲垣 裕輔
川崎製鉄 大橋 延夫
住友金属 寺崎富久長、金子 輝夫
神戸製鋼 須藤 正俊

目次

- 第1章 鉄鋼の再結晶と粒界移動
- 第2章 結晶粒界の構造と粒界移動の機構
- 第3章 低炭素リムド鋼板の再結晶および再結晶集合組織
- 第4章 低炭素アルミニウムキルド鋼板の再結晶および再結晶集合組織
- 第5章 低炭素鋼板の再結晶集合組織に及ぼす照化物形成元素添加の影響
- 第6章 低炭素鋼板の再結晶集合組織に及ぼす銅添加の影響
- 第7章 薄鋼板の成形と組織の関係
- 第8章 正極点図による集合組織測定法